

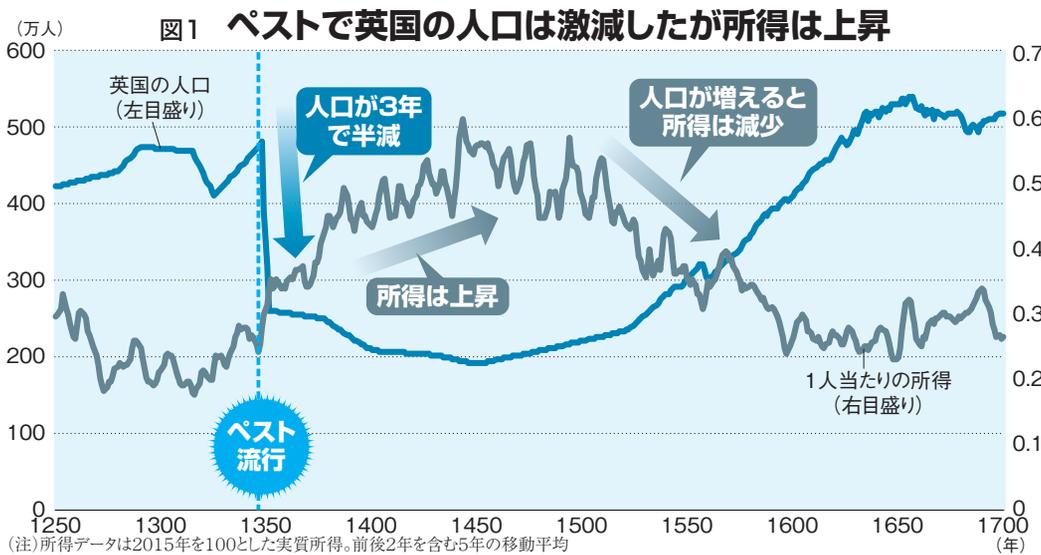
パンデミックと経済

ペスト、HIVでも示された人命と成長のトレードオフ

新型コロナウイルスの感染拡大の後、世界経済は沈滞するの
か、成長軌道に戻るのか。カギは死者数と感染拡大の抑制措
置がいつまで続くかだ。

ほりい りょう
堀井 亮

(大阪大学社会経済研究所長)



記録が残っている中で最悪のパンデミック(世界的大流行)は、14世紀に世界中で流行した「黒死病」と呼ばれたペストだ。当時の世界人口約4億5000万人のうち、約1億人が死亡したとされる。特にヨーロッパでは被害が

大きく、英国では1348年から3年間で国民のほぼ半分が死亡し、人口減少は100年近く続いた。しかしその間、英国の1人当たり所得は倍以上に上昇した(図1)。

人口減少により労働供給が減り、人手不足で賃金が上がったからだ。人口密度が下がったので、人手を大量に必要とする農耕から、広い土地と牧畜犬を用いた牧畜に産業構造がシフトし、1人当たりの生産性も上がった。英国の人口は16世紀には回復するが、皮肉にも人余りで賃金が下がり、1人当たり所得は低い水準に戻ってしまった。再び所得が上昇するのは19世紀の産業革命期まで待たなければならなかった。

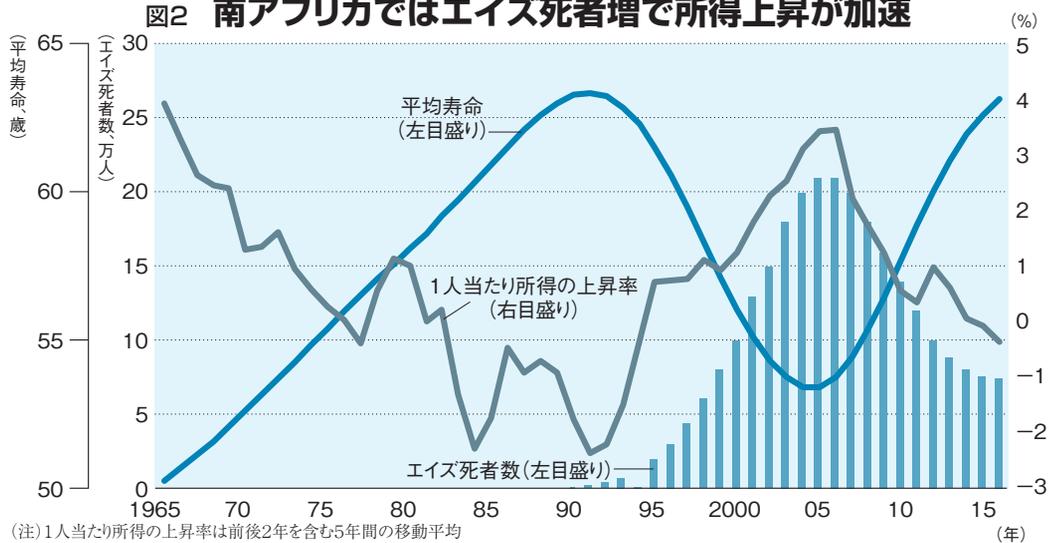
1918年に流行したスペイン風邪(インフルエンザ)でも、世界で数千万人が亡くなった。日本では38万人、米国でも67万人が死亡した。米ミシシッピ大学のトーマス・ギャレット教授の研究によると、米国ではスペイン風邪による死亡率が高かった州のほうが、翌年までの賃金上昇率が高かった。米ブランダイス大学のエリザベス・ブレインワード教授らの研究も、死亡率が高かった州や大都市ほど、1920年代に大きく賃金が増加したことを示している。労働者が減り、1人当たり多くの資本(設備)を使えるようになったためだ。

「生き残った」人だけ

同様のパターンは、エイズウイルス(HIV)のパンデミックでも当てはまる。主にアフリカ南部で1990年ごろから流行し、これまでに世界で3200万人が死亡した。南アフリカ共和国では、HIV発生前に63歳だった平均寿命が、2005年のパンデミックのピーク時には53歳まで下がった。一方で、エイズ死亡者の増加と平均寿命の低下と歩調を合わせるように、南アフリカの所得上昇率は90年代から05年にかけて大きく加速した(図2)。

人手不足が賃金上昇につながっ

図2 南アフリカではエイズ死者増で所得上昇が加速



(注)1人当たり所得の上昇率は前後2年を含む5年間の移動平均
(出所)国連世界人口推計、世界銀行、国連合同エイズ計画のデータより筆者作成

ただけでなく、女性の労働参加を促したことも大きな要因だ。女性が外で働くこと、子育てに使える時間が減り、出生率が下がる。子どもが減れば、一人一人に良い教育を受けさせることができるので、高いスキルが身につく、さらに賃

金上がるのだ。多くの母親がエイズで死亡したため、一時は孤児が増え教育に負の影響もあったが、英ロンドン大学のアルウィン・ヤング教授の研究によると、プラスの効果が大きく上回ったという。

教育の阻害で所得低下

ミックでも、今後の経済成長は促進されるのだろうか。その答えは、二つのファクターにかかっている。

一つは、最終的な死者数だ。もし、スペイン風邪のように世界で数千万人が死亡するならば、人手不足による賃金上昇、成長加速が再現するだろう。しかし今のところ、外出制限や渡航制限により、各国政府は死者数や感染者数を抑えようとしている。例年、日本での肺炎死者数は10万人前後だ。コロナウィルスの死者数がそれを大きく超えなければ喜ばしいが、所得上昇効果も限られるだろう。

もう一つのファクターは、外出自粛、休業・休校要請など、緊急事態の抑制措置がいつまで続くかだ。国連教育科学文化機関(ユネスコ)によると、4月24日時点で世界の生徒・学生の90%、15億人以上が、休校などにより学習を妨げられている。コロナウィルスが終息するまでに数年かかるという専門家もいる。休校措置が長期化すれば、オンライン学習が難しい低所得者層や途上国を中心に、人的資本(知識やスキル)の蓄積

が大きく阻害され、将来の所得を低下させるだろう。戦争などで学習を一時妨げられた世代は、生涯にわたって低収入になることが知られており、コロナウィルスも同じ悲劇を生む可能性がある。

米ハーバード大学のロバート・パロー教授の推定によると、国民の平均教育年数が1年減ると、経済成長率は0・44%下がる。この効果は、休校措置で影響を受けた世代が引退するまで何十年も続き、累積では非常に大きなマイナスになる。

また、休業要請が長期化すれば、経済の下支え策などで政府支出が膨らみ、財政赤字が悪化する。これも教育阻害と同様、経済成長率を低下させる効果がある。

歴史に学ぶなら、パンデミックは経済成長を促進する、ということになる。ただし、これはハッピーストーリーではない。たとえ賃金や生活水準が上昇したとしても、家族や友人を失った悲しみと比較することはできない。それに、生活が向上したのは「生き残った」人たちだけである。昔話の姥捨山や、子どもの間引きのように、口減らしで残った人の生活を楽にするという風習は各地にあった。それが良かったのかどうか、現代人の我々が判断することは難しい。

ではコロナパンデ

コロナショックが経済成長につながるか、それとも経済沈滞に向かうか、最終的には政治や国民の選択により決まる。抑制措置を早期に解除すれば、死者は増えるが、所得上昇効果が勝つだろう。人命最優先で抑制措置を続けられれば、経済は長期的に悪化する。「人命か経済か？」と聞かれた時、「経済」と答えられる政治家はいない。しかし、いつまでも続けるわけにはいかない。どこかで決断するタイミングが迫られる。